

第4回泉南市自治基本条例検討委員会会議録

- 日時 平成23年7月25日(月)午後6時~8時
場所 泉南市役所 2階 大会議室
- ・出席委員 10名
 - ・事務局 政策推進課長、政策推進課課長代理、企画係長、企画係主任

村田委員長より本日の議題および進行について説明

(1) 条項の検討方法について

<村田委員長>では、本日の第1議題について、事務局から説明してもらいたい。

- ・事務局が資料(書類番号3・書類番号4)を用いて、ワークショップにて検討を進めていく方法、検討対象とする項目、そして今後のスケジュールについて、事務局案の説明を行う。

<村田委員長>ここまでで、何か質問はないか。

- ・質問出ず

<村田委員長>ではワークショップで検討をすすめていくが、各委員の役割の説明を事務局から説明してもらいたい。

<事務局>各グループの中で発表を行う代表者、討議シートに記載を行う書記、そして討議の進行役を決めてください。

(2) 条項の検討について「市(市長・職員)の役割と責務」

<村田委員長>それでは、続いて作業に移っていくが、事務局も二つに分かれてそれぞれのグループに入る。また、私は両方を見るので、何かわからないことや質問があれば言って欲しい。皆が参加し議論を深めていくことが大切だ。

先ほどの事務局説明の繰り返しになるが、9月まではこのような作業を続けて

いき、10月には素案の元となるたたき台の検討に入るということを頭に置いておいて欲しい。

では、誰がどの役割を担うかは班の中で話し合っただけで、1時間程度を目途に作業を始めてもらいたい。

- ・ 各グループ内での役割分担を決め検討事項として挙げられた項目について作業を行う

(3) 全体討議

<村田委員長> そろそろ時間がきたので各グループの討議を発表してもらいたい。

グループ1

(市長)

- ・ リーダーシップが必要
- ・ 住民の代表である(市民のために働く)
- ・ 実情把握が必要
(市長は地域の実情をもっと知ること、三現主義を大切にすべし、市民の意見をよく聴くこと、市の管理、監視)
- ・ 経営力
(経営感覚を持つべし、市長としての経営力、交渉上手であるべし、国との交渉力、中央からお金を引っ張り出す)
- ・ 公約実現
(住民に業務の報告、市長の仕事の明確化、職員以上の努力が必要、自分の夢を語り、受けいれられるよう努力すること)

(職員)

- ・ 公僕(市民の公僕である認識を持つべし、サービス業と自己認識すべき)
- ・ 専門性(専門知識をもってほしい、自己研鑽に努めるべし)
- ・ 市民目線
(一般企業以上に勤勉であること、汗をかくことをいとわない、市民の生活を守る、窓口での相談に親身になって対応する、親切でなければならない)

(実現するためには)

- ・ 市長は、市民の代表であるという認識をもって、リーダーシップを発揮する

- ・市長は、実情を把握し、公約実現に向けて職員以上の努力を行うべきである
- ・市長は、経営感覚をもって交渉を行い、市を経営すべきである
- ・市長は、公約実現に向け、市民に受けいれられるよう努力し、市民にそれを報告すべきである
- ・市長に対する政策評価を行う
- ・市は、プラス志向の人事評価が必要
- ・市は、オンブズマン制度の確立を目指す
- ・市は、ボランティア活動団体等を活用することにより市民協働を推進する
- ・市は、徹底的な情報公開・情報提供を行うことにより市民への説明責任を果たすべきである
- ・職員は、公僕という意識を常に持ち、その専門性を高めるべく自己研鑽に励むべきである
- ・職員は、勤勉で、市民目線で対応すべきである

グループ2

(市長)

- ・市民の立場に立つ(市民本意、弱者への目配り)
- ・ビジョンを持つ(無駄の削減、まちおこしの具体像、明確な基本計画)
- ・市民参画の推進(市民の参画、市民の声を大切に、オンブズマン制度)
- ・積極性(問題提起へのフォロー、イエスマンで固めない、やさしすぎない)
- ・その他
(職員が仕事をしやすい環境づくり、市長は政治家であり経営者であるべき)

(市役所)

- ・合理化(電子化による予算削減、合理化、効率化を図る)
- ・体制
(縦割り行政をやめる、早い意思決定が必要、最後のセーフティネットという自覚が大切)
- ・その他(新住民対策が重要)

(職員)

- ・資質
(覇気がない、常に明るいこと、仕事への熱意と責任感、レベルの差をなくす、コンピューターに精通すべき、職員のエースが必要)
- ・心構え
(公僕である、市民本位の立場、丁寧な対応、正確な引継ぎ、変化に臆病にな

らないこと。)

- ・その他(たらい回し対策、市民の声への迅速な対応)

(実現するためには)

- ・市長、職員ともに市民の立場に立つ
- ・市長は、リーダーシップを発揮してビジョンを示す
- ・市長は、経営者として職場環境の整備を行い、職員のやる気を引き出す
- ・市は、市民参画を促す企画、仕掛け作りを進めるとともにオンブズマン制度の確立をめざす
- ・市は、電子化を進め、作業の合理化、効率化を図り、効果的な施策を実施する
- ・市は、前例主義にとらわれない、柔軟で機能的な組織づくりを行う
- ・市は、情報公開、情報提供による説明責任を全うする
- ・市は、信賞必罰、能力主義を検討するとともに、年功序列の見直しをはかり、職員研修・自己研鑽を通じて職員の資質向上を図る
- ・職員は、職責に対する熱意と責任感をもつ
- ・職員は、作業のマニュアル化等により資質の標準化を進める

<村田委員長> 本日の委員会のまとめも兼ねて、今の発表内容を討議シートにまとめたものを資料として事務局で作成してもらいたい。

<事務局> 次回の委員会開催通知とともにご送付します。

<村田委員長> まとめの段階で何か議論が出たグループはあるか。まだ、意見が出し尽くされていないだろうが、本日のところは先ほどの発表をまとめた資料を作成し、委員会の記録にも反映することとする。

続いてその他の案件に移りたい。事務局から説明してもらいたい。

- ・ 事務局より条例制定の先進市である阪南市への視察についての説明を行う(書類番号5)とともに各委員に「何を」聞いてみたいかを尋ねた

<委員> どのように進めていったのか、作業工程を知りたい。

<委員> 理想とするものになったのかどうか、聞いてみたい。

<村田委員長>これからやっていこうとする我々には、上手くいったことよりも、上手くいかなかった点を聞くことが大切だと思う。

先ほども話したが、9月までこの形態を進めていく。時間があまりないことから、次回、8月11日に行う項目について事前によく考えておいてほしい。

本日の委員会は以上とする。

<事務局>ありがとうございました。